

山形県立中央病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用、または、提供されることを希望されない場合は、下記の間合せ先にお問合せください。

研究課題名	胃癌による胃出口狭窄症に対する治療法の実態調査 (ERGO-J study)
該当者	①胃癌により胃の出口をふさがれた患者さん, ②2015年1月~2015年12月の期間に当院でバイパス手術またはステント挿入術を受けた患者さん
当院の研究責任者	外科 福島 紀雅
研究代表者	岐阜大学医学部腫瘍外科 教授 吉田和弘
本研究の目的	現在、バイパス手術およびステント術がどのような患者に行われ、どの程度の効果と安全性があるのかよく分かっていない状況です。本研究では、胃癌による胃出口狭窄症の患者さんに行われているこれらの治療の有効性、安全性及び治療予後の実情を把握するとともに、治療成績に影響を与える因子を検討することにあります。これにより、今後同じような症状を持つ患者さんに対して、より安全で効果的な治療が選択されようになり、治療成績の向上が期待されます。
実施予定期間	2017年10月から2018年6月にかけて、参加病院の医師がカルテを調査します。
研究の方法	胃癌により胃の出口をふさがれた患者さんで2015年1月~2015年12月の期間に当院でバイパス手術またはステント挿入術を受けた患者さんの診療記録から①基本情報：年齢、性別、身長、体重、②術前腫瘍因子：cT、cN、cM（転移部位）、肉眼型、占居部位、③術前身体要因：罹病期間、摂食状況、Performance status、検査所見、④手術項目：術式、手術時間、出血量、⑤術後摂食状況、⑥術後合併症、⑦治療成功、⑧術後全生存期間、⑨ステント閉塞、⑩化学療法導入、⑪切除移行の情報を取得し解析を行う。
研究に用いる試料・情報の種類	当病院の研究医師は、診療録の既存の資料のみを用いてデータを収集する。
外部への試料・情報の提供・公表	収集したデータは、データセンターが配布するExcelファイルに入力し、入力したExcelファイルはデータセンター（国立病院機構熊本医療センター 治験センター）に返送する。
個人情報の取扱い	患者さんの氏名・住所・生年月日など個人を特定する情報は収集しません。
利益相反	無し
お問合せ先	①国立病院機構熊本医療センター 治験センター 高武 嘉道（こうたけ よしみち） TEL：096-353-6501, ②山形県立中央病院 外科 福島 紀雅（ふくしま のりまさ） TEL：023-685-2626